

# 貞純親王塔及び岩下清周氏と 不二聖心のルーツを辿る



第七回となる今回の史跡めぐりは、「貞純親王塔及び岩下清周氏と不二聖心のルーツを辿る」とし桃園地区内を巡り、裾野市の歴史の一部を探訪しました。講師に裾野市文化財保護審議委員の田口建一様を迎え、約四キロをゆっくり三時間の徒歩の旅でした。

まずは桃園集会所敷地内の桃園神社に祀られている祭神貞純親王塔から出発しました。清和源氏の始祖である清和天皇の皇子として京で生まれ、住んでいた邸宅の名「桃園」から桃園親王とも呼ばれていました。

不二聖心のキャンパスに向かう途中、樹々の繁る森に旧貞純親王塔と講堂跡を訪ね、日本オリジナルの紅茶、タダニシキ



の茶葉の栽培地である茶畑を見学、炭焼き跡のある森に着きました。そこはドラマ鎌倉殿で頼朝の落馬シーンの撮影がなされた所でした。共生の森は生徒たちが課外活動、自然観察等の学習や研究の活動の場として大切に護られています。

校舎本館のアーカイブルームには不二聖心(温情舎)の歴史、裾野市との関りなどが美しく展示されていました。教員の望月様が解り易く丁寧の説明くださいました。不二農園、温情舎を初めとする岩下家の功績を深く知ることとなり有意

義な時間でした。  
企業家岩下清周の墓所を訪ね、旧校舎の跡地を確認しながら桃園集会所に戻って参りました。

